

第1回 特別支援ライフスキル教育研究会

～お金の授業実践から考える暮らしに役立つ学校教育とは～

2021年12月5日（日） 13:00～16:00

（録画配信期間:編集期間(約1週間～10日)終了後より7日間、お申込み者全員に配信します)

- | | |
|-------------|---|
| 13:00
開会 | 開会あいさつ
特定非営利活動法人お金で学ぶさんすう® / 一般財団法人ゆうちょ財団 |
| 13:10
発表 | 豊かで質の高い生活の実現に向けて ～本校の新しい教育課程におけるお金の教育～
京都市立白河総合支援学校 中村一郎校長 佐々木千佳学部長 |
| 13:30
発表 | 学校外の即戦力を育みながら多教科学習へも広がる実践事例
長崎県諫早市立諫早小学校 特別支援学級 深山智美教諭 |
| 14:00
発表 | お金の教育で見落としがちな「必要なものと欲しいもの」という視点
ファイナンシャル・プランナー 横井規子先生 |
| 14:30
発表 | 今求められる生きる力を高めるために ～知的障害特別支援学校家庭科指導部の取組～
高知大学教育学部附属特別支援学校 安岡知美教諭 |
| 15:00
発表 | 卒業後のお金の使い方トラブルアンケート集計結果発表
特定非営利活動法人お金で学ぶさんすう® 事務局 |
| 15:30
発表 | アンケート結果から考える今後の学校に必要な教育(仮題)
桃山学院教育大学 石塚謙二教授 (元元文部科学省特別支援教育課 特別支援教育調査官) |
| 16:00
閉会 | 閉会あいさつ
特定非営利活動法人お金で学ぶさんすう® |

日時 2021年 12月5日（日） 13:00～16:00 (録画配信期間:編集終了後～7日間)

会場 オンラインzoom(お申込み者に会場URLを12月3日に送信します)

会費 無料

お申込先 <https://forms.gle/ZJQVAYwSQKezsCev8>

対象 学校教育関係者、支援者、保護者など
特別支援教育におけるお金の学習にご興味のある方、アンケートご回答者

主催：特定非営利活動法人(NPO法人)お金で学ぶさんすう®

共催：一般財団法人 ゆうちょ財団

お問合せ

特別支援ライフスキル教育研究会 事務局

運営:特定非営利活動法人(NPO法人)お金で学ぶさんすう®

〒607-8075 京都市山科区音羽野田町15-2 K-FLAT 708号室

TEL: (075)581-8811 E-mail info@okane-sansuu.com

担当 住山(すみやま)まで

最新情報はWEBでもご確認いただけます！ <https://www.okane-sansuu.com>



登壇者プロフィール(発表順)

京都市立白河総合支援学校

学校教育と職業訓練を同時に受ける職業教育システム(デュアルシステム)の特別支援学校版を日本で初めて導入し、企業とのパートナーシップに基づく産業現場実習を実施している。職業学科を設置し、「食品加工(家政)」「農園芸(農業)」「情報印刷(工業)」の専門教科を設けており、働くことの基礎基本を学び、卒業後の企業就労を目指す。2007年10月博報賞受賞。

深山 智美教諭

「特別支援の子どもの一生涯の幸せを保障するために学校は何が出来るか」をテーマに、障害者が就職したあとに関わる様々な人からの聞き取り調査を実施。多くの気付きを得て小学校の段階から「学校卒業後に役立つ教育」を研究・実践している。長崎県公立小学校特別支援学級教員。

著書:特別支援学級の子どものためのキャリア教育入門(基礎基本編・実践編)他

横井 規子先生(ファイナンシャル・プランナー)

「物が壊れたら買えばいいでしょう」と、お金の大切さがわからなかった娘に小遣い制を取り入れ、みるみる変化！それを機に、子どもの金銭管理教育に力を入れるようになる。ゲーム形式で学べる講座は、「口で説明するよりわかりやすい」と、授業や親子レクなど、これまで250校、14,000人が受講。特別支援学級や高等支援学校では、上手なお金の使い方や金銭管理について、わかりやすく伝えている。

著書:どうする？子どものお金のしつけ

安岡 知美教諭

発達段階6歳程度の知的障害のある生徒が毎日お弁当作りをして職場に持参できるようになる指導や、発達段階4歳程度の生徒が自分で具材を選んでチャーハンを作るようになる指導など、在学中および社会人生活に直結する生活スキルを身に付ける指導において多くの結果を作り続けている。日本特殊教育学会、日本家庭科教育学会などの各種学会における発表実績が多数あるほか、専門誌での執筆も行う。

高知大学教育学部附属特別支援学校 高等部 教諭。全学年の家庭科を担当。

石塚 謙二教授(桃山学院大学 人間教育学部 人間教育学科)

養護学校教諭、教育委員会指導主事などを経て、文部科学省特別支援調査官時代には学習指導要領、教科書などの企画、執筆のほか特別支援教育制度の企画、実施調査等を実施する。日本UD授業学会副理事長など特別支援学会に複数所属し、数多くの著書を持つなど、特別支援教育界の重鎮である。